

2007年8月8日

ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ ニュートラル・ファンド 愛称:GS US ニュートラル



8月8日の基準価額の下落について

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンドの8月8日の基準価額は、前日比-2.06% (-188円)と大幅な下落となりました。その背景を下記にご説明いたします。

8月3日の米国株式市場について

8月8日の基準価額は、8月3日付のGS米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド(アイルランド籍マスターファンド)の価格に基づいて計算されます。8月3日の米国株式市場は大きく下落し、代表的な株価指標であるS&P500種株価指数は-2.65%(米ドルベース)、ラッセル3000種株価指数も-2.72%(米ドルベース)と大きく下落しました。

米国におけるサブプライムローン問題によって複数のヘッジファンドが先週破綻するなど、サブプライムローン問題の与える影響は不動産・住宅といった関連セクターにとどまらず、信用リスクの増加をもたらした企業金融全般へ波及し始めています。当ファンドのマスターファンドであるGS米国株式マーケット・ニュートラル・ファンドが銘柄選択の対象とするラッセル3000種株価指数では金融サービス・セクターが-3.67%と下落が目立ったほか、テクノロジー(-2.61%)、一般消費財(-2.50%)などの業種が下落しました。

ファンドの騰落率について

当ファンドの運用戦略は、割安度や収益性といった複数の銘柄評価基準からみて、評価の高い銘柄を多数買い持ち(ロング)する一方、評価の低い銘柄を多数売り持ち(ショート)することで、市場全体の騰落の影響を極力避けながらも基準価額の値上がりを目指すものです。

しかし、サブプライムローン問題によって米国株式市場が値下がり始めて以降、当ファンドで買い持ちとしている銘柄群が、金融市場の混乱や景気の減速への不安から大きく売られてしまっています。そのため当ファンドの基準価額の下落がもたらされています。その一方で、売り持ちとしている銘柄群には、企業業績などの別の点で問題を抱えているものが多いものの、今後の業績改善への期待が根強く、金融市場の混乱を理由にさらに値下がりするものは多くありませんでした。このため、売り持ちとしている銘柄群が値下がりすることによる基準価額の押し上げ効果は高くありませんでした。

サブプライムローン問題を発火点とする金融市場の混乱が続くなか、当ファンドの基準価額においても値動きの荒い展開が想定されます。とくに、これまで調整を続けていた米国株式市場が反発局面に向かった場合、当ファンドが売り持ちとしている銘柄群が市場全体に広がる安心感から急速に値を戻し、当ファンドの基準価額を一段と押し下げる可能性もあるものと考えております。しかしながら、株式市場の動揺が沈静化するに従い当ファンドの運用戦略の有効性も回復局面に向かうものと弊社では考えております。

設定来基準価額推移

期間:2003年8月29日~2007年8月8日



上記は過去の実績であり、将来の結果を保証するものではありません。